

令和3年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** ・ 県単

事業名	農地防災事業 [防災重点農業用ため池緊急整備事業(国補)]		事業箇所	大月市猿橋町小篠	地区名	小篠	事業主体	山梨県	
計画期間	当初計画	現計画	④特記事項(関連事業概要等) なし						
	R2~R5	R2~R5							変更計画
総事業費	440 百万円	470 百万円	781 百万円	⑤これまでの評価状況 なし					
(1) 事業の概要									
①事業目的及び効果				(2) 事業位置図等					
<p>本ため池は大月市南東部に位置し、稲作を行う本地域の水田用水を確保するための重要な農業用施設である。</p> <p>一方で、本ため池は築造から90年以上が経過しており、機能診断の結果、堤体が地震発生時における所定の基準を満たしていないことが判明した。</p> <p>ため池の下流域には人家等があり、大規模な地震または豪雨により決壊した場合、甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早期に防災工事を実施し、住環境の安全、農業生産の維持及び農業経営の安定化を図るものである。</p> <p>□主要目標 ○洪水被害危険度の軽減 ・ため池決壊の構造的危険度 84点≧67点 ※ ・ため池決壊に伴う下流域への影響度 26点≧9点 ※ (※評価基準値)</p> <p>□副次目標 ○農業用排水能力の向上</p> <p>□副次効果 ○農地の保全 ○既存施設の崩壊危険性の排除 ○遊休農地の解消</p>									
②事業概要				<p>地理院地図(国土地理院)を加工して作成</p>					
堤体工 一式、 洪水吐工 一式									
③全体計画									
		令和2年度まで	令和3年度 (評価実施年度)						令和4年度以降
現計画	工事内容	測量設計 一式 堤体工 一式	堤体工 一式						堤体工 一式 洪水吐工 一式 (L=107m)
	事業費	352 百万円	110 百万円						8 百万円
変更計画	工事内容	測量設計 一式 堤体工 一式	堤体工 一式						堤体工 一式 洪水吐工 一式 (L=192m)
	事業費	352 百万円	110 百万円	319 百万円					

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

2.評価シート(1)

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)

①地域・住民の意向状況

受益農地における農業生産の維持及び集落における住民生活の安全性確保のため、管理者である土地改良区を始め地元農家や住民の早期完成要望が強い。今回の洪水吐工の変更は、豪雨の際に洪水を安全に流下させるために必要な措置であり、関係者からは十分な理解が得られている。

②産業・経済情勢

変化なし

③国等の方針

国では令和2年10月に「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」を施行し、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を活用し、ため池の防災・減災対策を集中的に実施することとしている。

④上位計画・関連事業計画等

上記特別措置法に基づき策定された「防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画(山梨県)」及び「大月市地域防災計画」に本ため池の防災工事が位置づけられている。

⑤自然環境条件等

変化なし

⑥その他

変化なし

(2) 評価時点の費用対効果分析

項目		着手時点	変更計画時点
総事業費		440 百万円	781 百万円
工期		R2~R5	R2~R6
評価基準年		R1	R3
経済 効率 率 性	費用	429 百万円	748 百万円
	建設費	368 百万円	693 百万円
	その他(関連、再整備費)	61 百万円	55 百万円
	便益	805 百万円	805 百万円
	災害防止効果	806 百万円	806 百万円
	維持管理費節減	-1 百万円	-1 百万円
B/C		1.9	1.1

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

(3) これまでの計画変更等の概要

なし

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率
別表のとおり。
R3年度進捗率(現計画) 98.3%→(実績) 98.3%→(変更計画) 59.2%

②進捗率実績が計画と相違している理由
計画どおり進捗

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
洪水吐工の内、減勢工及び流路工	216百万円 増	計画後の豪雨等により計画範囲下流の水路法面が浸食され、一体的な整備が必要となった。また、流下能力を再検討した結果、水路断面が大きくなった。
堤体工の内、押え盛土工	95百万円 増	落水後のボーリング調査により、当初の想定より池底が低い位置に確認され、安定計算を行った結果、押え盛土量が増となった。また、土質調査により押え盛土の改良材配合量が増となった。
合計	311百万円 増	

④事業期間の変更理由及び進捗予定
洪水吐工の事業量増に伴い工期を1年間延長する。
その他の工種についても計画的かつ効率的な実施に努め、令和6年度の完了を目指す。

⑤今後の事業執行における留意点
なし

(5) 環境負荷等への配慮
工事において、環境等への影響を最小限にするよう措置を講じる。

(6) コスト削減の可能性
施設改修時に発生する残土(ため池内の堆積土を含む)を安定処理して堤体の補強盛土に流用する。

(7) 代替案立案の可能性
なし

(8) 所管部の今後の方針 **継続・見直し継続**・その他()
(理由)
特別措置法に基づく県の「防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画」に位置づけられた防災工事を行うものであり、早期に地域の安全・安心を確保するため、事業を継続し、令和6年度完了を目指す。

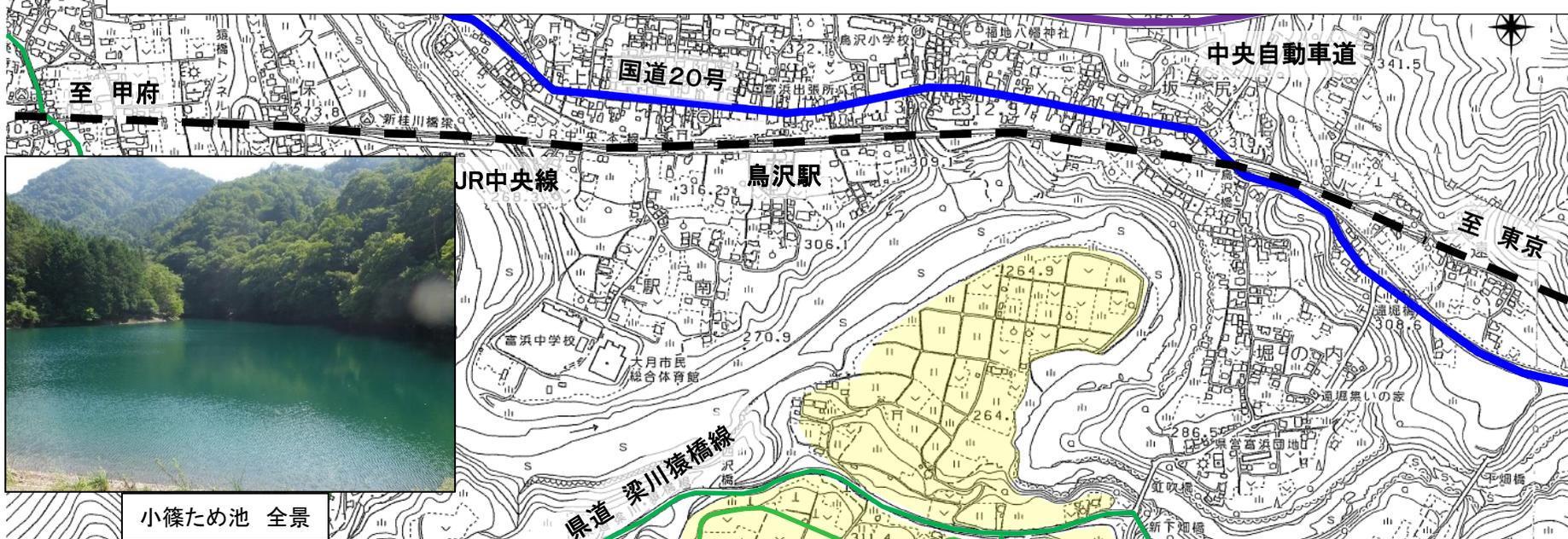
○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法:【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位:%

	年度	*R2	*R3	R4	R5	R6
現	計画	74.9	98.3	100	100	
	実績	74.9	98.3			
	変更計画		59.2	74.6	87.3	100

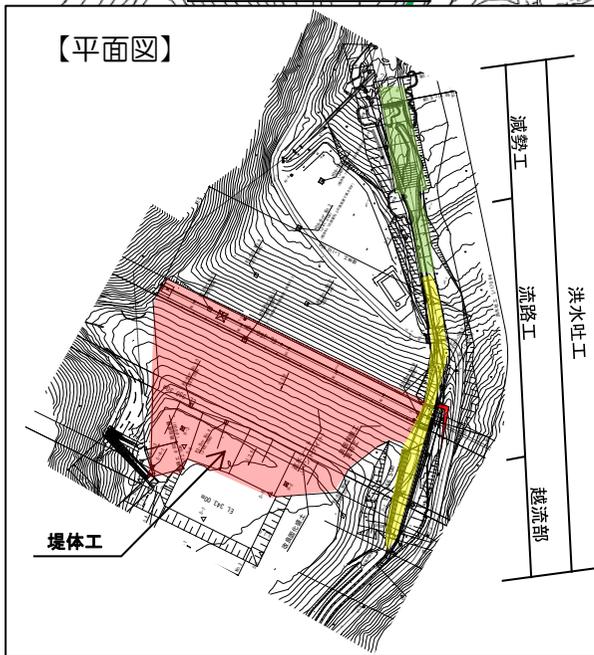
*事業着手年度又は評価年度
*R3年度の実績は見込み

農地防災事業[防災重点農業用ため池緊急整備事業]小篠地区 一般計画平面図



小篠ため池 全景

【平面図】



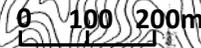
小篠ため池
堤体工 一式
洪水吐工 一式

小篠ため池 概要	
総貯水量	141,000m ³
堤高	27.4m
堤頂長	111m

事業概要	
主要工事	堤体工 一式 洪水吐工 一式
受益面積	16 ha

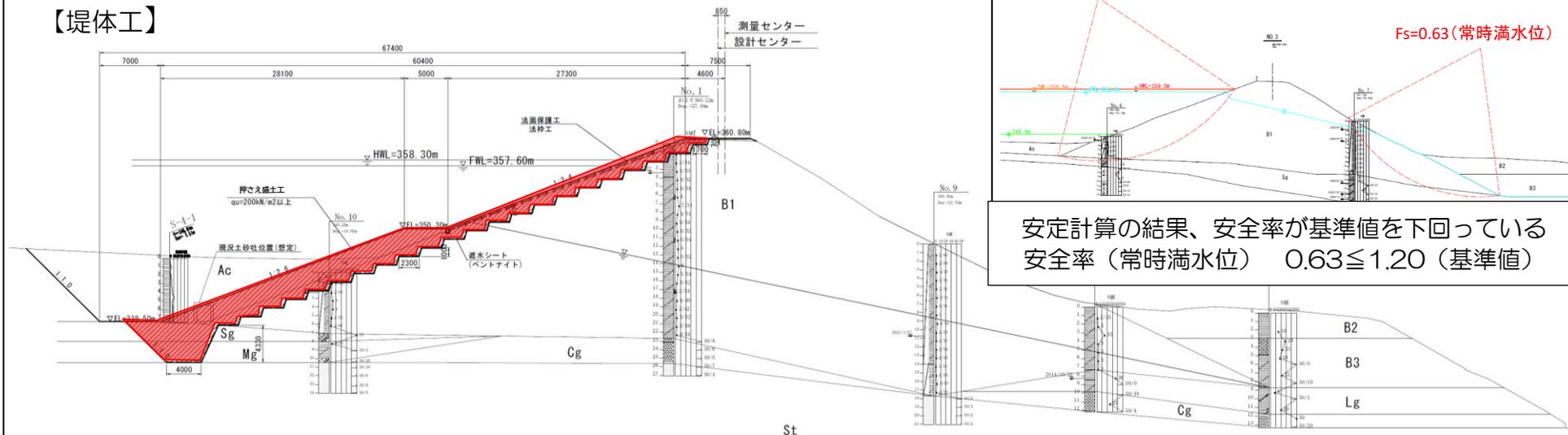
凡例	
	令和2年度まで
	令和3年度
	令和4年度以降
	計画増

凡例	
受益地	
国道	
県道	
JR中央線	



3. 添付資料シート (2)

【堤体工】

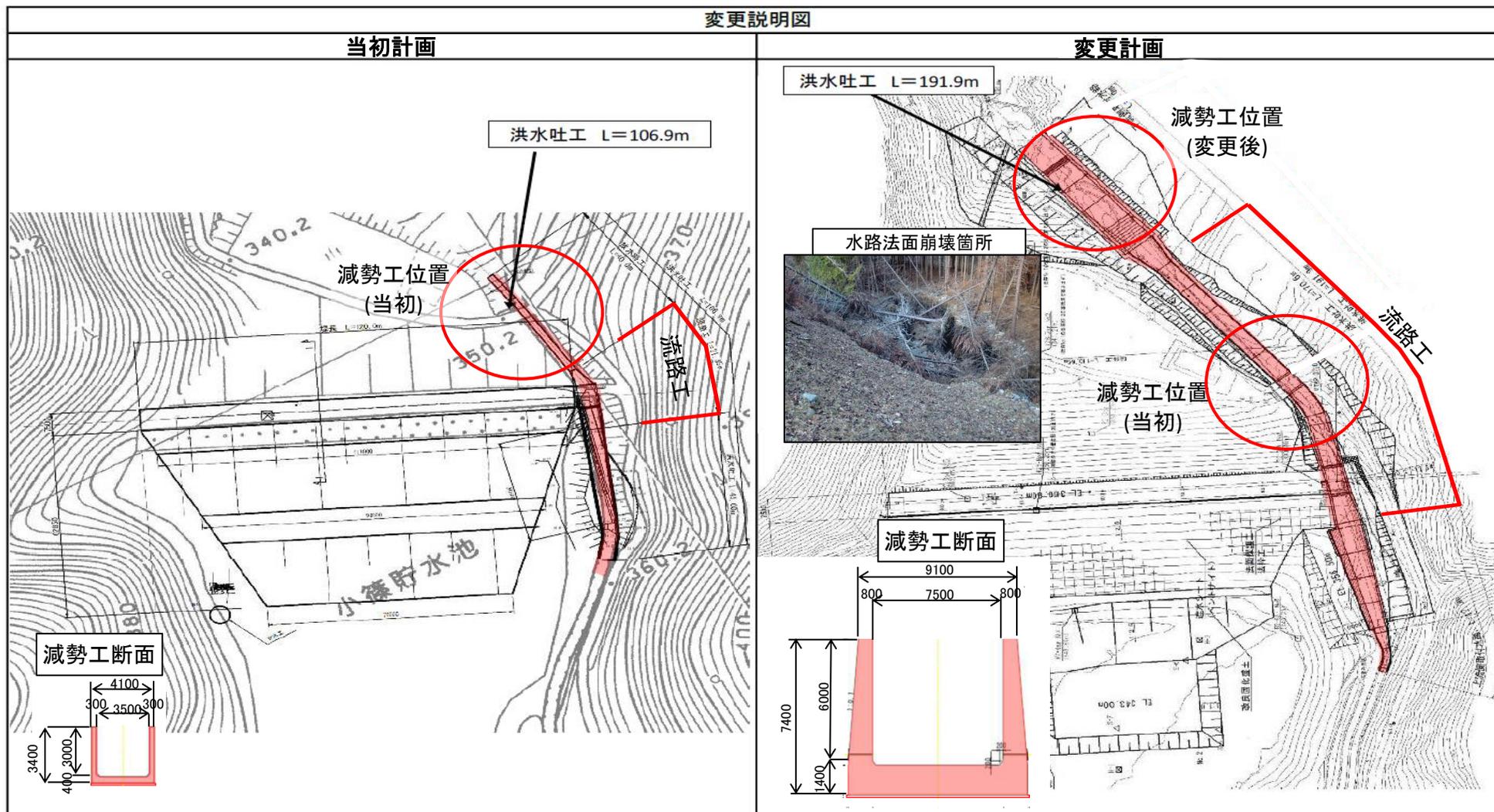


現況堤体は耐震性能が不足し、決壊時には下流側へ甚大な影響を及ぼす恐れがあるため、補強対策としてため池内の土を改良した押さえ盛土工法を採用した。また、遮水シートの劣化が著しいため、表面遮水工（ベントナイトシート）を設け、波浪及び雨水侵食に対する保護工として法枠ブロック工法を施工する。



3. 添付資料シート (3)

【洪水吐工】



当初計画後の豪雨等により計画範囲下流の水路法面の浸食が進行してしまい、洪水を安全に流下させるために、ため池と一体的な整備が必要である洪水吐工の延長が増となった。それに伴い構造を再検討したところ、減勢工位置を当初位置より下流側に変更する必要が生じた。

また、勾配の見直しを行った結果、流路工及び減勢工断面が大きくなった。

